

施策マネジメントシート

施策名	行政評価	健康づくりの推進	施策統括課	予防・健康担当	氏名	尾崎 重明
政策名	施策体系	ひとが生きる・暮らす	施策関係課	高齢者支援課、地域包括ケア推進担当、健康増進課		

1 施策の目的と目標

対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等

・市民

意図(対象をどう変えるのか)

・病気を予防する
・より健康な状態になる
・適切な医療を受けられる

対象指標(対象の大きさを表す指標)数字は記入しない

名称	単位
ア 人口	人
イ	
ウ	
エ	

成果指標(意図の達成度の指標)数字は記入しない

名称	単位
ア 生活習慣病の有病率(内分泌、栄養及び代謝、循環器系の疾患) 有病率は国保レセプトの上記疾患件数の全体に対する割合	%
イ 1年前より健康だと感じている市民の割合	%
ウ 医療体制・内容に安心している市民の割合	%
エ	
オ	

2 第2次基本計画期間(平成23~27年度)内における取組内容

体系	具体的な取組内容
元氣なくにたち健康づくり計画の推進	運動・遊びによる健康づくりを進めていきます。食生活による健康づくりを進めていきます。休養・こころの健康づくりを進めていきます。たばこ・アルコール・薬物の知識普及を進めていきます。健康診査・健康相談の充実を図ります。
市民、行政、関係機関の協働による健康づくり	個人個人の健康観により、一人ひとりが主体的に取り組む健康づくりの環境を、市民、行政、健康づくりに関連する団体等と協働して構築します。

3 総事業費・指標等の実績推移と目標値

		単位	数値区分	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	
対象指標	人	ア	見込み値									76,000	
			実績値	73,563	73,803	74,251	74,329	74,432	74,265	74,381			
			見込み値										
			実績値										
成果指標	%	ア	成り行き値				24.0	24.0	24.0	24.0	24.0	24.0	
			目標値				24.0	23.5	23.0	22.0	21.0	20.0	
			実績値	25.0	23.7	24.0	25.5	26.06	28.3	24.6			
			基本計画における施策の目標設定の根拠		40代が14.7%であるのに対し、50代では25.1%に上昇してしまうことから、その平均値である20%を目標としました。								
	%	イ	ウ	成り行き値				15.3	15.3	15.3	15.3	15.3	15.3
				目標値				15.9	16.5	17.1	17.7	18.3	19.0
				実績値	14.3		15.3	14.6	13.1	15.2	13.9		
				基本計画における施策の目標設定の根拠		第2回国立市市民意識調査で地域別で最も高い水準である西地域の18.9%を上回る数値を目標値としました。							
	%	ウ	エ	成り行き値				69.2	69.2	69.2	69.2	69.2	69.2
				目標値				69.7	70.7	71.7	72.7	73.7	75.0
				実績値	62.0		69.2	73.0	70.3	70.5	72.6		
				基本計画における施策の目標設定の根拠		第2回国立市市民意識調査で「あなたは、近くに安心してかかることができる医療機関がありますか?」との問いに対し「ない」と回答された方のうち、「医療機関に関する情報が不十分だから」を理由とされた方を半減させた数値を上乗せし目標値としました。							
オ	エ	オ	成り行き値										
			目標値										
			実績値										
			基本計画における施策の目標設定の根拠										
事業費	コスト	事務事業数		本数	58	63	60	59	59	62	43		
		財源内訳	国庫支出金	千円	2,134,891	995,089	1,535,715	970,551	985,519	953,545	943,241		
			都道府県支出金	千円	572,592	302,576	279,534	250,828	329,485	413,830	327,137		
			地方債	千円			33						
			その他	千円	3,622,111	2,730,276	2,866,363	2,882,692	2,897,724	3,070,408	3,362,578		
			一般財源	千円	2,342,558	1,911,544	1,540,283	2,003,280	2,037,911	2,208,551	1,481,275		
		事業費計(A)		千円	8,672,152	5,939,485	6,221,928	6,107,351	6,250,639	6,646,334	6,114,231	0	0
		人件費	延べ業務時間	時間	20,539	24,504	22,598	22,328	21,776	22,689	18,730		
			人件費計(B)	千円	92,816	108,113	102,325	101,356	98,300	102,174	74,837		
			トータルコスト(A)+(B)	千円	8,764,968	6,047,598	6,324,253	6,208,707	6,348,939	6,748,508	6,189,068	0	0

4 施策の現状

(1) 施策を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか?

・医療制度改革関連法の施行に伴い、市が健康づくりに関して実施する事業が20年4月から健康増進法と高齢者の医療の確保に関する法律に変わり、特定健診、特定保健指導の実施が医療保険者に義務付けられた。平成25年度から第2期実施計画に基づき実施している。
 ・70歳以上で現役並み所得の方は平成18年10月から医療費の自己負担割合が2割から3割となった。70歳～74歳までの方の一部負担金の割合は平成20年度以降、3割または特例措置により1割となっていたが、平成26年度以降、新たに70歳になる方は、一部負担金の割合が3割または2割になる。
 ・乳がん・子宮頸がん・大腸がんに対する国の補助制度が整備され、がん(肺がん・胃がん・大腸がん・乳がん・子宮頸がん)の検診受診率を50%にまで上げる事業を実施している。
 ・健康寿命の延伸が注目され、喫緊の課題となっている。

(2) この施策に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?

[議会] がん検診(大腸がん、子宮頸がん)を充実して受診率を上げて欲しいとの要望がある。また歯科疾患予防のフッ素塗布について、市の実施の在り方の検討を求められている。
 [市民] 市内に専門的な医療機関が無い、医療機関に関する情報が不十分である、市役所に専門的な医療相談を受けられる窓口がない、総合病院がない、夜間救急診療機関が少ないという声があった。

5 25年度の評価結果

(1) 施策の取組状況

25年度行政経営方針	取組状況
「予防に勝る治療なし」の考え方を施策の基本とし、「元気にたち健康づくり計画」がめざす健康像の実現に向け、生活習慣病予防やこころの病の予防等の取組を行っていく。 また、受診率の低い各種がん検診及び市が実施する国民健康保険加入者の特定検診の受診率の向上には特に力を入れていく。 発達しょうがい児に対する療育事業については、関係部署と連携しながら早期発見・早期支援に継続して取り組んでいく。	健康診査の結果を踏まえ、生活習慣病予防のため、運動指導、栄養指導等の特定保健指導を実施し、高齢者には、介護予防のため、低栄養予防、運動機能向上、口腔機能向上等の事業を総合的に実施している。こころの病については、ゲートキーパー研修及び映画会を実施した。発達しょうがい児については、年代別に親子の集団指導を実施している。また、がん検診については、大腸がんでは、はがきにより40歳及び60歳の方に受診勧奨を実施した。乳がんでは、受診機会の拡充の検討を行った。 平成26年度に「第3回 国立市民の健康に関する意識・実態調査」を実施していく。 40歳以上全員を対象とした歯科検診を実施している。 生活習慣病重症化予防事業の導入を検討している。 地域に保健師が入っていく事業に着手した。

(2) 施策の成果実績把握と評価

成果指標目標達成度(目標値と実績値との比較)

成果指標ア 【生活習慣病の疾病率(内分泌、栄養及び代謝、循環器系の疾患) 疾病率は国保レセプトの上記疾患件数の全】
 25年度目標値を達成 未達成 (24年度実績値と比較し成果向上・維持 24年度実績値と比較し成果低下)

成果指標イ 【1年前より健康だと感じている市民の割合】
 25年度目標値を達成 未達成 (24年度実績値と比較し成果向上・維持 24年度実績値と比較し成果低下)

成果指標ウ 【医療体制・内容に安心している市民の割合】
 25年度目標値を達成 未達成 (24年度実績値と比較し成果向上・維持 24年度実績値と比較し成果低下)

成果指標エ 【 】
 25年度目標値を達成 未達成 (24年度実績値と比較し成果向上・維持 24年度実績値と比較し成果低下)

成果指標オ 【 】
 25年度目標値を達成 未達成 (24年度実績値と比較し成果向上・維持 24年度実績値と比較し成果低下)

成果指標カ 【 】
 25年度目標値を達成 未達成 (24年度実績値と比較し成果向上・維持 24年度実績値と比較し成果低下)

時系列比較(過去3ヶ年の比較) A(かなり向上)～E(かなり低下)
 C:成果はほとんど変わらない(横ばい状態)

他自治体との成果実績値の比較 A(かなり高い)～E(かなり低い)
 C:他自治体と比べてほぼ同水準である

背景として考えられること
 ア 生活習慣病の疾病率が下がり国保医療費が下がっている。
 イ 健康だと感じている市民の割合は前年度と比べて下がっているものの、変わらないが上がり、全体としては、横ばいである。
 ウ 市内には、大きな病院はないものの、近隣市に高度医療を受けられる病院が数か所あり、市の実施しているがん検診の啓発も行われている。
 生活習慣病の疾病率は減少している。
 多摩の各市と同様の事業展開をしており、同水準とした。また、予防接種事業が充実してきている。

(3) 施策の全体総括(成果実績やコスト、見直しを要する事務事業等)

・国保税条例の改正により、国保税率を改定した。
 ・ふれあい銭湯事業は平成25年度から事業を中止した。
 ・まちかど保健室及びオリジナル体操普及推進事業は引き続き見直しの検討を行っている。
 ・くにたちポイント付与制度を導入したが特定健診の受診率が上がっていないので、今後の検討を必要とする。
 ・高齢者向け介護予防事業の参加希望者が多く、待機者がある。
 ・国保医療費が下がっている。

6 施策の課題・今後の方向性

・健康寿命の延伸に向けた施策、医療費適正化の事業を行っていく。
 ・健康に関する事業に社会資源の活用を検討していく必要がある。
 ・第一次健康づくり計画の振り返りを行っていく。